

2018年度「グッドデザイン賞」受賞

2018年10月3日に、移動機開発部の小栗 伸†、日田 勝、椿 達也、田中 美紗、島 杏奈、サービスインベション部の松岡 保静が企画開発した「Japanese Language Training AI」[1]と移動機開発部の小栗 伸、椿 達也、日田 勝、国際事業部の高宮 正明、田中 威津馬、内田 敦、小牧 徹夫が企画開発した「Menu Translator AR」が公益財団法人日本デザイン振興会の2018年度グッドデザイン賞を受賞しました。

グッドデザイン賞とは、さまざまに展開される事象の中から「よいデザイン」を選び、顕彰することを通じ、私たちの暮らしを、産業を、そして社会全体を、より豊かなものへと導くことを目的とした「総合的なデザインの推奨制度」です。創設以来半世紀以上にわたり、「よいデザイン」の指標として、その役割を果たし続けています。

Japanese Language Training AIは日本に興味をもつ外国人や、日本で働く外国人向けの日本語会話

トレーニング支援サービスで、「語学を学ぶ上で、従来型の決まりきった例文を覚える方法ではなく、一般的に難しいとされる自由な会話や表現の判定などを行う学習ツールとして高く評価された。会話学習のためにAI技術を活用した点は適切な使い方の好例であり、また外国人支援を積極的に行う事は今後の日本を考えた場合、大変意味がある」という点が評価され、今回の受賞となりました。

現在は、トップガンのプロジェクトとして、パートナー企業と商材化に向けた実証中です。

また、Menu Translator ARは訪日旅行者向けスマートフォンアプリで、文字だけの料理メニューにカメラをかざすと、料理の写真や食材など、内容がわかる・見えるものとなっており、「画像から文字認識と翻訳を行うサービスとしてはすでにGoogle翻訳アプリがあるが、本対象では料理メニューに特化することで、ただ文字が翻訳されるだけではなく、メニューの写真も提示することにより外国人の理解を深める」という点が評価され、今回の受賞となりました。

文献

- [1] 小栗、ほか：“外国人の日本語会話学習を支援する「Japanese Language Training AI」、”本誌, Vol.27, No.2, pp.6-12, Jul. 2019.



(左から) 島、田中、小栗、日田、椿



† 現在、ソリューションサービス部